

ひるがみ

第 85 号

令和 4 年 2 月 11 日

発行

障害者支援施設
阿智温泉療護園

社会福祉法人 下伊那社会福祉会

〒395-0304

長野県下伊那郡阿智村智里昼神

TEL 0265-43-3172 FAX 0265-43-3173

ホームページ

<http://achion.com/ryougo/>

「ともに生きる」

園長 岡庭保人

「一億分の一」。過酷な競争の末、人間の精子が卵子と出会い、受精することができる確率だそうですね（NHK BS「ヒューマニエンス」）。司会役織田裕二の言葉を借りれば、「生まれだってことは、その時点で既に日本一」なのです。

しかしながら、自分が奇跡的に生を享けた選ばれし者と感謝しつつ人生を謳歌している人ばかりではないはずです。生まれる時は日本一であっても、病气やケガ或いは生来の疾患により、生涯介護を受けざるを得ない立場

となる人も多数います。

当園では、重度の身体障害をもつ四十五名の利用者さんが生活し、同数の職員が利用者さんのサポートを行っています。二年に及ぶ新型コロナウイルスの流行は、私たちの行動範囲を著しく限定させ、面会や帰省、外出を不可能にしました。ストレスも極限です。

しかし、感染症は恐怖や不安・不満だけではなく大事なことを思い起こさせてくれたように感じます。それは、利用者さんと職員は介

助される側とする側という括りではなく、お互いが「ひと」として共に生きているということです。私たちが互

いの立場を尊重し、共感し、分け隔てなく暮らすことのできる療護園であり続けたいと心より念じています。



雪化粧をした療護園周辺です。

明るく、力強く、 生きるために

脳性麻痺という障害の医療、教育、福祉の支援体制は、戦後三十年が経った昭和五十年代以降に漸く整えられました。つまり、それまでこの障害に対する各分野の研究は暗中模索状態で、救済策は無きに等しかった訳です。それ以前に生まれた脳性麻痺者らは制度上のロスから、社会生活上に必須の諸経験を積む機会には恵まれませんでした。

療護園の利用者に多い脳性麻痺の人々も、各々の障害と時代との深い溝に落ち込んでしまった境遇から、自身を守り抜いて生きる勘を育む大切なチャンスが得られなかつ

た、という場合が少なくないのです。

しかし、過去、取り零して来たものが余りに多い私達利用者も日々明るく、力強く生活を充実させなければなりません。そう思えばこそ、支援員さん達の優しさ、温かさが身に沁みます。

(利用者 H・K)

嘔吐処理研修

看護師さんの指導の元で二人一組になり、マネキンを使い食事中とベッド上で嘔吐したと想定した研修を行いました。

処理キットは普段で

介護員室だより

一月末時点で、全国及び長野県内で新型コロナウイルス感染症「オミクロン株」による感染が急拡大しています。利用者さんにもテレビを通じて情報が伝わっており、「今日は飯田で〇〇人感染者が出た」とYさんが毎日最新の情報を伝えてく

れます。他の利用者さんからは、「何時まで続くの?」「何とかしてよ」と声があり、不安や苛立ちの思いを抱えて生活されています。園全体で感染対策に努めている為、利用者の皆さんはお変わりなく生活されていますが、思う様に生活する事が叶わず、申し訳ない思いでいっぱいです。

職員も不安や緊張感を抱えながら精一杯生活支援を行っています。が、少しでも利用者の皆さんへ楽しく、安心して生活して頂ける様に考えて実践していきたいと思えます。

(T・K)



一式ビニール袋に入れて各所に配置してあります。

も目につく場所に分かりやすく用意して下さってありますし、手順

書も入っておりますので参考にしながら行う事が出来ました。

勉強になったのは感染を広げない為に処理を一人で行うのではなく声を掛け周りとの協力しながら素早く行う事、感染を広げない事がとても大切だと感じました。

実際の場面に遭遇すると嘔吐した方の様子を見ながら処理を行わなければなりません、戸惑ってしまう事もあるかもしれませんが、今回研修で看護師さんに教わった事を生かして処理をしていきたいと思えます。

(M・K)

節分



南棟に新型コロナウイルスを沢山つけた鬼がやってきました。普段あまり手を動かす機会が少ない利用者さんもこの時とばかりに「鬼は外ー!」「福は内ー!」

豆に見立てた新聞紙の玉を鬼に向かって投げていました。ポンポンポンプンとリズムミカルに球を投げる利用者さん、遠慮がちに投げる利用者さん等様々でした。コロナ禍で楽しみだ

た外出もできずストレスもたまっている利用者さん、声も出して少しでもスッキリしたかな…と利用者さんの笑顔を見て感じました。利用者さんの頑張りのおかげで新型コロナウイルスの鬼を無事に追い払う事ができました。(M・W)

新任職員挨拶

十二月二十一日よりお世話になっております、介護福祉士の達岡よしみです。家庭の事情で、十五歳で阿智村を離れてからずっと「阿智村に帰りたい…」と思いがら過ぎしていまし

た。

三十三年間横浜の主人の実家で暮らしていましたが、田舎暮らしの素晴らしさを・阿智村の素晴らしさを毎晩主人に洗脳し、やっと主人と共に南信州にUターンする事が出来ました。

忘年会の食事について

十二月と一月は忘年会、クリスマス、年越し、正月、新年会などで行事食が多い時期です。その中でも毎年特に力を入れているのが忘年会です。今年の忘年会は利用者さんに旅行気分を味わって頂くことがテーマだったため、昼食会では厨房特

製の松花堂弁当とオランダからイメージした花の形のレアチーズケーキを提供しました。内容や盛り付け等、どうしたら喜んでもらえるかなあと試行錯誤しながら作っているのだから「おいしかったよ、ありがとう」と普段よりボリュームがあるにも

かかわらず綺麗に食べてもらえるのをみるととても嬉しく思います。コロナ禍ではありま

すが、せめて食事から少しでも季節を感じて楽しんでいただけるよう努めていきたいです。(K・M)

忘年会 昼食メニュー

忘年会スペシャル弁当
 手鞠寿司 or ソフト寿司
 (手鞠寿司:まぐろ、たまご、サーモン / ソフト寿司:ネギトロ、たまご、いなり)

ローストビーフ
 エビフライ・からあげ
 炊き合わせ
 いちご

ミキサー食の方
 ソフト寿司 or ミキサー粥・ネギトロ
 牛肉ムースのガーリックソースかけ
 エビフライ・からあげ
 煮物・和え物ムース
 いちごゼリー

デザート
 花の形のレアチーズケーキ

忘年会スペシャル弁当の写真は4ページに掲載しています。

皆様が自然にゴールデンルルが出来ている事に、阿智温泉療護園の風土の素晴らしさを感じ、一員になれた事が嬉しくて仕方ありません。いち早く仕事を覚え、微力ながら皆様の力になりたいと思っております。末永く、宜しくお願い致します。

忘年会

今年度の忘年会は、コロナで外出ができない利用者さんに「旅行」の気分を味わってもらえるような企画を用意しました。YouTubeから観光地（中国・日本・オランダ・各国のクリスマス）の



動画を楽しむ利用者の皆様です。

動画を採り、司会はバズガイド風にコスプレして流しました。各棟や食堂にも動画に関連した飾りつけ（パンダ・舞妓さん・風車等の折り紙や写真）をし、少しでも旅行に行っている雰囲気近づけました。案内している



この他、旅行気分で記念撮影が出来るように、屏風も作成しました。



昼食は華やかな松花堂弁当でした。

「おく」と歓声が上がっており、映像の各国の煌びやかな建物に夢中な様子でした。利用者さん達も各国の衣装（チャイナドレス・サリ・着物）を着ても



日本を旅行されている皆さま～。舞妓さんと集合写真を撮りますよ～。“ハイ！チーズ！”

現況報告

令和四年二月一日現在

利用者 四十五名

職員 四十五名

(非常勤職員を含む)

らいしました。特に女性利用者さんは華やかな衣装に身を包むことができ、大変喜んでいました。コロナの日常を忘れる様なひと時だったと思います。(Y・U)

面会禁止のお願い

新型コロナウイルス感染症の感染者減少に伴い、当園では十月より条件付きでは有りますが面会を再開致しました。

しかし、厳寒期を迎え感染者が爆発的に増加していることから、利用者様の健康維持を鑑み、当面の間「面会禁止」とさせていただきます。

誠に申し訳ございませんが、状況をご賢察の上ご理解頂き、今後とも当園の運営にご支援、ご協力をよろしく願います。

